

○地域特産品である西条柿も高齢化による担い手不足が課題。そこで、早期成園化と省力化が期待されるとともに、高所作業から解放されるジョイント栽培技術の確立に向けて生産者主体による全県広域的な研究会を発足することになった。

具体的な成果

1 西条柿ジョイント仕立て研究会設立を合意



福岡県から研究員を招いた研修会と県内3か所で現地実証ほを設置し、生育調査をおこない技術確立に向けた意識啓発を通じて**研究会設立を合意**

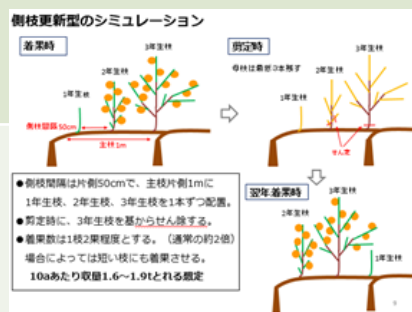


実証ほの結果からは、

- ①植栽1, 2年目の生育を旺盛にすることが重要であると推察した。
- ②側枝の更新方法を2つのパターンに絞り込むことができた。

普及指導員の活動

1. 平成28年～29年



- ・研究データ等を活用した現地実証調査
- ・福岡県の研究員を招き、現地指導会や講演会を開催し、生産者の研究活動を支援
- ・普及指導員のジョイント栽培技術指導力向上に向けた研修実施

普及指導員だからできたこと

- 1 他県の研究情報提供や研究員を招いた研修会開催し、生産者主体による研究会設立の機運を醸成できた。
- 2 現地実証ほを活用した生産者の研究意欲を向上することができた。

西条柿ジョイント栽培の技術確立支援

活動期間：平成28年度～（継続中）

1 取り組みの背景

果樹の新しい樹形である「ジョイント仕立て」（以下、ジョイント栽培とする）は、省力化、早期成園化が図られることから、全国的に各樹種で導入されつつあります。本県では、西条柿において試験研究に先立ち、平成26年度から現地導入されました。導入されたほ場を中心にジョイント栽培の技術確立を支援しながら西条柿産地振興に取り組んでいます。

2 活動の内容

(1) 実証ほの設置と調査

出雲普及部で2ヶ所、技術普及部で1ヶ所の実証ほを設置し、県内3地区で生育や栽培管理等を調査しました。

＜主な調査内容＞

- ・ 適正樹勢の把握
- ・ 施肥、灌水等の管理方法
- ・ 収量
- ・ 経費

(2) 現地検討会の開催

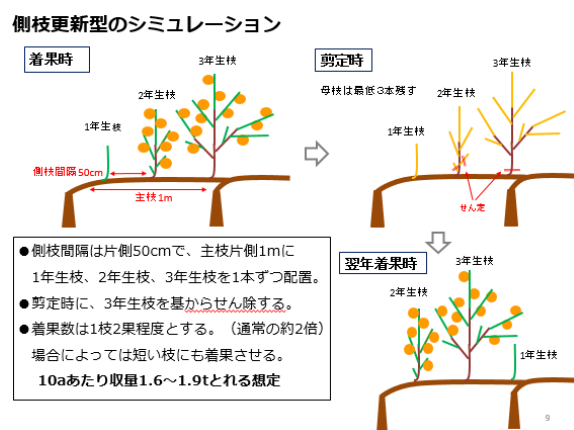
導入生産者、導入産地のJAおよび農業普及部を参集し、導入産地である出雲市および浜田市のほ場において現地検討を行いました。

＜主な内容＞

- ・ 各産地の生育状況および実証ほ調査結果の報告
- ・ 産地間の情報交換
- ・ 施肥、灌水等の管理方法の検討
- ・ 側枝更新技術の検討



現地検討会の様子



側枝更新技術に用いたシミュレーション資料

(3) 先進地との連携

カキのジョイント栽培の先進地であり、栽培マニュアルを作成されている福岡県農林業総合試験場の研究員を招き、現地指導会およびジョイント栽培技術についての講演会を開催しました。



福岡県の研究員から助言を受けている様子



講演会の様子

4) 普及員の技術習得

西条柿のジョイント栽培は、技術が確立しておらず導入事例も少ないため、普及員の技術習得が難しい状況でした。

そこで、上記3)の現地指導会および講演会を機能強化研修として位置づけ、普及員の技術習得、技術向上を図りました。

3 活動の成果

様々な事例を調査し、情報交換を行ったことから、西条柿におけるジョイント栽培技術の要点を把握することができました。また、それにより、生産者自ら栽培管理を改善されました。

そして、ジョイント栽培に関心の高い県内の西条柿生産者による研究会が平成30年7月に発足する予定です。

4 農家等からの評価・コメント（実証ほ設置A氏のコメント）

ジョイント栽培は、若手の後継者を確保するためにも、今後重要になってくる技術だと考えています。やってみなければわからないことばかりで時間はかかるかもしれませんが、技術が確立されることを期待しています。

5 普及指導員のコメント（技術普及部果樹技術普及課 農業普及員 岩谷洋美）

西条柿での研究報告がないため、生産者へ伝えられる情報が少なくもどかしい部分もありますが、先進地との情報交換等、その中でもできる支援を行っています。今後も技術確立に向けて、生産者の主体的な研究活動を継続して支援していきます。

6 今後の展開

栽培技術の要点は把握できたものの、大苗の確保、施肥量や灌水量の基準設定、側枝更新技術の確立等の課題が残っています。

今後は、生産者および関係機関で組織される研究会を設立し、調査事例も増やして早期技術確立を図っていきたいと考えています。